

準絶滅危惧 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

テラニシセスジゲンゴロウ

Copelatus teranishii Kamiya

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少

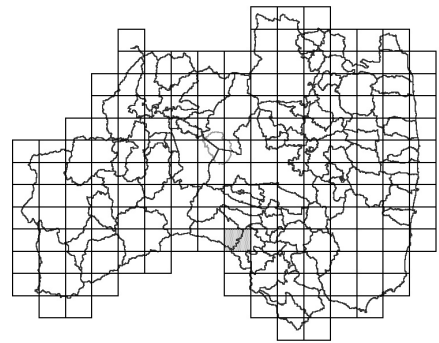
【形態】 体長4.8~5.4mm。上翅には6条の縦溝と1条の亜縁溝を持っており、上翅は褐色で基部は淡色の横帯を形成する。

【分布】 本州と九州に分布しているが、分布は連続しておらず点々としている。

【県内の分布、生息状況】 白河市の1ヶ所から見つかったが、この生息地における最近の調査では、生息が確認されなかった。

【主要文献】

大桃定洋(1989)テラニシセスジゲンゴロウを福島県で採集。月刊むし,(226):5。



準絶滅危惧 コウチュウ目 エンマムシ科

ルリエンマムシ

Saprinus splendens (Paykull)

【選定根拠】 b 分布域の一部で生息条件悪化

【形態】 体長5.2~7.7mm。上翅は美しいルリ色を呈しているため、判別は容易である。

【分布】 北海道から琉球列島まで広く分布している。

【県内の分布、生息状況】 いわき市から分布が確認されており、海浜の腐敗物の下などから見いだされる。

【生息に影響を与えている要因】 カワラハンミョウなどと同様、砂浜への車両の乗り入れ等により生息地が荒らされ、発生個体数が減っているものと思われる。

【特記事項】 砂浜環境を保護するため、砂浜へ車両を乗り入れないことが望ましい。

【主要文献】

田添京二(1991)福島県のエンマムシ。福島生物,(34):17-23。

